

事務事業実績測定調書

R5調書番号 410

事務事業名称	帰国児童等に対する教育指導員派遣事業										
測定年度	2023(R5)年度			部	学校教育部			課	支援教育課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5	
総合計画体系	基本目標		3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち								
	施策目標		16.子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち								
	実行計画名										

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業
事業期間	1987(S62)年度	年度	～		年度まで
根拠法令等	決裁				
関係補助金名称			サンセット		～
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	日本語の理解が困難な帰国・渡日児童生徒			
	サブターゲット	日本語の理解が困難な帰国・渡日児童生徒の保護者			
	ターゲットが抱える課題	日本語の理解が困難で学校生活への適応の促進に努める必要がある。			
	ターゲットが抱える課題	通訳者の確保			
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	日本語の理解が困難な帰国・渡日児童・生徒すべてが学校生活を快適に過ごし、学校と児童・生徒及び保護者との間で意思疎通が図れている状態。				
事業概要	帰国渡日1年目の対象児童・生徒に教育指導員を週2回、2年目は週1回派遣している。				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)	アウトプット (活動結果)	インプット (活動)
		日本語の理解が困難な帰国・渡日児童生徒すべてが学校生活を快適に過ごし、学校と保護者との間で意思疎通が図れている状態。	教育指導員派遣により、日本語及び教科の学習の支援等を行う。	対象児童・生徒の言語に対して対応できる教育指導員を派遣する。
指標設定	指標説明	児童・生徒が指導を受けてよかったと感じている割合 【算出式: 特別の教育課程を実施している児童・生徒に対し、「最後までやりとげて、うれしかったことがある」について肯定的回答をした人数/回答者数×100】	対象児童・生徒に対する教育指導員の派遣率【算出式: 教育指導員の派遣回数/児童・生徒の必要指導回数×100】	教育指導員の派遣回数
		単位 %	単位 %	単位 回
	指標種類	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標
	指標数値	R2 R3 R4 R5	R2 R3 R4 R5	R2 R3 R4 R5
	目標 (見込み)	100 80 80 80	100 100 100 100	2,100 2,100 2,100 2,100
	実績	100 76.10 100 100	100 100 100 100	1,360 839 665 686
達成度		125%	100%	33%

3. 人員体制 (人)

	R5実績
正職員	0.33
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

		(千円)				
		R3決算額	R4決算額	R5決算額	(参考) R5予算額	(参考) 予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	2,907	1,328	2,605		
	会計年度任用職員	0	0	0		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	2,907	1,328	2,605		
歳入	物件費計	4,220	3,360	3,598	5,095	70.6%
	歳出計	7,127	4,688	6,203		
	国庫支出金	0	0	0	0	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
歳入	府支出金	0	0	0	0	※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	歳入計（物件費に充当される特定財源）	0	0	0	0	
一般財源（物件費に充当されるもの）		4,220	3,360	3,598	5,095	

5. 総括的分析

総括的分析	令和5年度も、教育指導員の派遣により、児童・生徒が学校生活を快適に過ごすために支援ができ、懇談等における通訳や多言語進路ガイダンス等で学校と保護者の意思疎通を図ることができた。
-------	--

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	帰国・渡日外国人児童・生徒の学校生活への適応促進のため、今後も継続して支援を実施する。

事務事業実績測定調書

R5調書番号 411

事務事業名称	人権教育推進事業									
測定年度	2023(R5)年度		部	学校教育部			課	支援教育課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5
総合計画体系	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち								
	施策目標	16.子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち								
	実行計画名									

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業
事業期間	1973(S48)年度	年度	～		年度まで
根拠法令等	決裁				
関係補助金名称				サンセット	～
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	人権教育担当の教職員			
	サブターゲット	市内小中学校に通学する児童・生徒			
	ターゲットが抱える課題	人権教育基本方針に基づき、人権についての正しい理解を図れるよう、研修等を実施している。学校園においては、人権教育担当の教職員の交代や多様化・複雑化している人権課題の正しい理解が求められているため、実態に応じた様々な研修を継続して実施する必要がある。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	人権教育の充実と教職員の人権意識の一層の向上が図られている状態。				
事業概要	学校園が教育活動において人権教育を適切に位置づけ、校園長を中心とした組織的な指導に努め、市立学校園における人権教育の推進を図るため、枚方市人権教育研究協議会を通して研究事業(講演会、実践報告会、学習会、研究大会等)を実施している。				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
		人権教育の充実と教職員の人権意識の一層の向上が図られている。				人権教育担当教職員が人権について正しい理解を図る機会が増える。				人権についての正しい理解を図れるよう、研修等を実施。			
指標設定	指標説明	各種研修を通じて、人権教育担当教職員の「人権意識が向上した」と感じている割合 【算出式:「人権意識が向上した」と感じている人権教育担当教職員/人権教育担当教職員 × 100】				大阪府人権教育研究協議会等による研修等の参加教職員数				人権に係る研修回数			
		単位 %				単位 人				単位 回			
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)	100	100	100	100	562	570	580	590	12	12	12	12
	実績	100	100	100	100	549	564	486	435	17	13	13	13
達成度		100%				74%				108%			

3. 人員体制 (人)

	R5実績
正職員	0.73
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

		(千円)				
		R3決算額	R4決算額	R5決算額	(参考) R5予算額	(参考) 予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	3,300	6,015	5,763		
	会計年度任用職員	0	0	0		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	3,300	6,015	5,763		
	物件費計	1,234	1,399	1,302	1,608	81.0%
歳出計		4,534	7,414	7,065		
歳入	国庫支出金	0	0	0	0	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	歳入計（物件費に充当される特定財源）	0	0	0	0	※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
一般財源（物件費に充当されるもの）		1,234	1,399	1,302	1,608	

5. 総括的分析

総括的分析	研修を受けた教職員は、教育活動において人権教育を適切に取り組み、校内において教職員に対して人権教育の大切さを広く進めることができた。
-------	--

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	今後も、本市小中学校における人権教育の推進を図るために、継続して人権教育の研究等に取り組む。

事務事業実績測定調書

R5調書番号 412

事務事業名称	総合的教育力活性化事業										
測定年度	2023 (R5) 年度			部	学校教育部			課	支援教育課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5	
総合計画体系	基本目標		3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち								
	施策目標		16.子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち								
	実行計画名										

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業		区分	一般事務事業
事業期間	2000 (H12) 年度	年度	～	年度まで		
根拠法令等	決裁					
関係補助金名称				サンセット	～	
関係附属機関名称						
事業対象	メインターゲット	中学校区内の子ども				
	サブターゲット	中学校区内の地域ぐるみで子どもを育む大人				
	ターゲットが抱える課題	生きる力が備わっておらず、また居住する地域への関心が希薄である。				
	ターゲットが抱える課題	安全面や衛生面、活性化などの地域の諸課題について、子どもとともに解決に取り組む場が少ない。				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	子ども一人ひとりの「生きる力」が育まれるとともに、地域社会において児童・生徒の理解が進み、学校と連携して子どもの成長を支える意識が醸成された状態。					
事業概要	19中学校区の各地域教育協議会が中心となって、子どもの様々な体験活動の機会や場を提供し、地域との交流を持つことで「子どもの生きる力」と「地域力」を育む。 ①子どもの課題を共有化する取組(広報紙の発行等)②大人のネットワークを拡大する取組(協議会の運営等)③子どもが参画する取組(フェスタ・祭りの開催等)④小学校入学前の子供と保護者の参加する取組(スポーツ大会等)⑤学校教育活動を支援する取組(職場体験学習協力等)⑥活動の安全を確保するための工夫(安全パトロール等)⑦その他(清掃活動等)の事業を委託する。					

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
		子ども一人ひとりの「生きる力」が育まれるとともに、地域社会において児童・生徒の理解が進み、学校と連携して子どもの成長を支える意識が醸成されている。				取組の実施により、地域社会における児童・生徒に係る理解が進む機会が増える。				各地域教育協議会を中心とした、子どもの課題を共有化する取組を実施。			
指標設定	指標説明	子どもの課題を地域に共有化した中学校区数				広報誌、機関紙の発行部数				子どもの課題を共有化する取組として広報誌・機関紙を発行した地域教育協議会数			
		単位 校				単位 部				単位 校			
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)	19	19	19	19	80,000	80,000	80,000	80,000	19	19	19	19
	実績	19	19	19	19	51,500	38,350	59,000	65,900	10	9	12	14
	達成度	100%				82%				74%			

ロジックモデル②		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)									
		子ども一人ひとりの「生きる力」が育まれるとともに、地域社会において児童・生徒の理解が進み、学校と連携して子どもの成長を支える意識が醸成されている。				取組の実施により、地域との交流を持つ機会が増える。				各地域教育協議会を中心とした、大人のネットワークを拡大する取組を実施。									
指標設定②	指標説明		子どもの課題を地域に共有化した中学校区数				地域教育協議会における、大人のネットワークを拡大する取組件数				大人のネットワークを拡大する取組を実施している地域教育協議会数								
	指標種類		増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標								
	指標数値	R2		R3		R4		R5		R2		R3		R4		R5			
		目標 (見込み)		19		19		19		19		88		88		88		88	
		実績		19		19		19		19		17		33		68		81	
達成度		100%				92%				100%									
ロジックモデル③		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)									
		子ども一人ひとりの「生きる力」が育まれるとともに、地域社会において児童・生徒の理解が進み、学校と連携して子どもの成長を支える意識が醸成されている。				取組の実施により、体験活動等を行うことが出来る機会が増える。				各地域教育協議会を中心とした、子どもが参画する取組を実施。									
指標設定③	指標説明		子どもの課題を地域に共有化した中学校区数				地域教育協議会における、子どもが参画する取組件数				子どもが参画する取組を実施している地域協議会数								
	指標種類		増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標								
	指標数値	R2		R3		R4		R5		R2		R3		R4		R5			
		目標 (見込み)		19		19		19		19		47		47		47		47	
		実績		19		19		19		19		12		21		34		44	
達成度		100%				94%				100%									
ロジックモデル④		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)									
		子ども一人ひとりの「生きる力」が育まれるとともに、地域社会において児童・生徒の理解が進み、学校と連携して子どもの成長を支える意識が醸成されている。				取組の実施により、体験活動等を行うことが出来る機会が増える。				各地域教育協議会を中心とした、小学校入学前の子供と保護者の参加する取組を実施。									
指標設定④	指標説明		子どもの課題を地域に共有化した中学校区数				地域教育協議会における、小学校入学前の子供と保護者の参加する取組件数				小学校入学前の子どもと保護者の参加する取組を実施している地域教育協議会数								
	指標種類		増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標								
	指標数値	R2		R3		R4		R5		R2		R3		R4		R5			
		目標 (見込み)		19		19		19		19		19		19		19			
		実績		19		19		19		19		2		9		11			
達成度		100%				79%				79%									

		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)				
ロジックモデル⑤		子ども一人ひとりの「生きる力」が育まれるとともに、地域社会において児童・生徒の理解が進み、学校と連携して子どもの成長を支える意識が醸成されている。				取組の実施により、体験活動等を行うことが出来る機会が増える。				各地域教育協議会を中心とした、学校教育活動を支援する取組を実施。				
指標設定⑤	指標説明	子どもの課題を地域に共有化した中学校区数				地域教育協議会における、体験活動等の取組件数				学校教育活動を支援する取組を実施する地域教育協議会数				
		単位		校		単位		件		単位		校		
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	
		目標 (見込み)	19	19	19	19	49	49	49	49	19	19	19	19
		実績	19	19	19	19	14	37	32	25	9	17	18	17
	達成度	100%				51%				89%				
ロジックモデル⑥		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)				
		子ども一人ひとりの「生きる力」が育まれるとともに、地域社会において児童・生徒の理解が進み、学校と連携して子どもの成長を支える意識が醸成されている。				取組の実施により、学校と連携して子どもの成長をさせる意識を醸成することが出来る機会が増える。				各地域教育協議会を中心とした、活動の安全を確保するための工夫に係る取組を実施。				
指標設定⑥	指標説明	子どもの課題を地域に共有化した中学校区数				地域教育協議会における、地域パトロール等の取組件数				活動の安全を確保するための工夫に係る取組を実施している地域教育協議会数				
		単位		校		単位		件		単位		校		
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	
		目標 (見込み)	19	19	19	19	86	86	86	86	19	19	19	19
		実績	19	19	19	19	8	66	40	50	11	12	12	13
	達成度	100%				58%				68%				

3. 人員体制 (人)

	R5実績
正職員	0.28
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

		R3決算額	R4決算額	R5決算額	(参考)R5予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	2,907	2,890	2,211		
	会計年度任用職員	0	0	0		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	2,907	2,890	2,211		
歳入	物件費計	3,800	3,601	3,589	3,800	94.4%
	歳出計	6,707	6,491	5,800		
	国庫支出金	0	0	0	0	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
	府支出金	0	0	0	0	※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
歳入	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
歳入計（物件費に充当される特定財源）		0	0	0	0	
一般財源（物件費に充当されるもの）		3,800	3,601	3,589	3,800	

5. 総括的分析

総括的分析	令和5年度は新型コロナウイルス感染症が5月8日より「5類感染症」の位置づけとなり、地域協議会での実施できる取組が前年度と比べて増えた。コロナ前の活動までとはいかないが地域の実情に合わせて工夫を凝らしながら実施する地域協議会が増えた。大人のネットワークを拡大する取組や子ども(中学生)が参画する取組に関しては増加傾向にあるため、子どもの様々な体験活動の機会や場を提供し、「子どもの生きる力」と「地域力」を育むための事業を推進する。
-------	--

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	令和6年度は、地域の実態に応じて主体性を発揮した運営を行いたい意向の地域教育協議会が多いため、学校教育や地域における活動を活性化し、子どもに「生きる力」を育む支援を実施したい。

事務事業実績測定調書

R5調書番号 413

事務事業名称	多文化共生教育推進事業									
測定年度	2023(R5)年度		部	学校教育部			課	支援教育課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5
総合計画体系	基本目標		3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち							
	施策目標		16.子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち							
	実行計画名									

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業
事業期間	1998 (H10) 年度		年度	～	年度まで
根拠法令等	決裁				
関係補助金名称				サンセット	～
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	人権教育担当の教職員			
	サブターゲット	市内小中学校に通学する児童・生徒			
	ターゲットが抱える課題	在日外国人教育・国際理解教育への理解を進める必要がある。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 （課題が解決した状態）	在日外国人教育・国際理解教育について、理解がある小中学校				
事業概要	学校園における在日外国人教育・国際理解教育の推進を図るため、枚方市多文化共生教育研究会を通して、研究事業（異文化交流講演会、学習会、機関紙発行等）を実施している。				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)	アウトプット (活動結果)	インプット (活動)
		人権教育担当教職員を介して、在日外国人教育・国際理解教育について、理解がある学校となっている。	研究事業を通じて、人権教育担当教職員が在日外国人教育・国際理解教育に関して触れる機会が増える。	在日外国人教育・国際理解教育の推進を目的とした研究事業を実施。
指標設定	指標説明	国際理解教育に努めている学校数 ※学校教育計画に国際理解教育を掲載している学校数	講演会等の参加教職員の延べ人数	講演会等の開催回数
		単位 校	単位 人	単位 回
	指標種類	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標
	指標数値	R2 R3 R4 R5	R2 R3 R4 R5	R2 R3 R4 R5
	目標(見込み)	64 64 63 63	340 350 360 370	6 6 6 6
	実績	64 64 63 63	225 319 225 282	3 4 4 4
	達成度	100%	76%	67%

3. 人員体制 (人)

	R5実績
正職員	0.18
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

		(千円)				
		R3決算額	R4決算額	R5決算額	(参考)R5予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	2,043	1,250	1,421		
	会計年度任用職員	0	0	0		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	2,043	1,250	1,421		
歳入	物件費計	113	54	193	211	91.5%
	歳出計	2,156	1,304	1,614		
	国庫支出金	0	0	0	0	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
歳入	府支出金	0	0	0	0	※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	歳入計（物件費に充当される特定財源）	0	0	0	0	
一般財源（物件費に充当されるもの）		113	54	193	211	

5. 総括的分析

総括的分析	本研究会に参加した教職員は、教育活動において、多文化共生教育について考えを深め、各学校で多文化共生教育を推進することができた。
-------	---

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	今後も小中学校における在日外国人教育・国際理解教育の推進を図るために、異文化理解のための学習会や授業研究に取り組む。

事務事業実績測定調書

R5調書番号 438

事務事業名称	進路指導等事務											
測定年度	2023(R5)年度			部	学校教育部			課	支援教育課			
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5		
総合計画体系	基本目標		3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち									
	施策目標		16.子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち									
	実行計画名											

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業
事業期間	2005 (H17) 年度	年度	～		年度まで
根拠法令等	決裁				
関係補助金名称			サンセット		～
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	市立小中学校の児童・生徒			
	サブターゲット				
	ターゲットが抱える課題	進路の選択			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 （課題が解決した状態）	進路相談やキャリア教育により、将来に展望を持つことができる。				
事業概要	◆進学意欲を有しながら、経済的な理由により進学が困難な支援を要する生徒や保護者等に対して、進路選択支援事業を特定非営利活動法人枚方人権まちづくり協会に委託し、奨学金等に関する相談や情報提供を実施する。 ◆教育活動全体を通して学ぶことの意義や働くことの意義を理解し、生徒が主体的に進路を選択決定する態度や意思、意欲などを培うキャリア教育を系統的に実施する。				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
		進路相談やキャリア教育により、将来に展望を持つことができる。				各種相談等に対し、適切に対応する。				進学意欲を有しながら、経済的な理由により進学が困難な支援を要する生徒や保護者に対して各種相談等を実施。			
指標設定	指標説明	自分の進路について考えた児童・生徒数の割合【算出式: 自分の進路について考えた児童・生徒数／全児童生徒数×100】				相談に対する対応率 【算出式: 対応件数/相談件数×100】				相談件数			
	単位		%		単位		%		単位		件		
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
		目標 (見込み)	100	100	100	100	100	100	100	100	34	35	36
	実績	100	100	100	100	100	100	100	100	30	31	32	35
達成度		100%				100%				95%			

ロジックモデル②		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)				
		進路相談やキャリア教育により、将来に展望を持つことができる。				小中学生にキャリア・パスポートの作成を指導する。				キャリア教育を実施する。				
指標設定②	指標説明	自分の進路について考えた児童・生徒数の割合【算出式:自分の進路について考えた児童・生徒数／全児童生徒数×100】				キャリア・パスポートの作成を指導した学校数				キャリア教育を実施した学校数				
		単位		%		単位		校						
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	
		目標 (見込み)	100	100	100	100	－	64	63	63	－	64	63	63
		実績	100	100	100	100	－	64	63	63	－	64	63	63
	達成度	100%				100%				100%				

3. 人員体制 (人)

	R5実績
正職員	0.88
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額 (千円)

		R3決算額	R4決算額	R5決算額	(参考)R5予算額	(参考)予算執行率
歳出	正職員、再任用、任期付	2,907	6,015	6,948		
	会計年度任用職員	0	0	0		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	2,907	6,015	6,948		
	物件費計	2,802	2,801	2,798	2,804	99.8%
歳出計		5,709	8,816	9,746		
歳入	国庫支出金	0	0	0	0	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。 ※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
	府支出金	657	660	739	660	
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	歳入計（物件費に充当される特定財源）	657	660	739	660	
一般財源（物件費に充当されるもの）		2,145	2,141	2,059	2,144	

5. 総括的分析

総括的分析	①令和5年度については、奨学金制度の説明を対面の集合式で実施することができた。また説明動画を配信し、幅広い生徒・保護者への周知を図った。 ②キャリア教育については、キャリア・パスポートを活用し、全中学校で実施した。
-------	--

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	①今後も進学意欲がありながら、経済的な理由で就学が困難な生徒や保護者に対して、必要な情報を提供を行う。 ②学ぶことの意義や働くことの意義を理解し、生徒が主体的進路を選択決定する態度や意欲などを培うキャリア教育を系統的に実施する。

事務事業実績測定調書

R5調書番号 450

事務事業名称	支援教育推進事業										
測定年度	2023(R5)年度			部	学校教育部			課	支援教育課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5	
総合計画体系	基本目標		3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち								
	施策目標		16.子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち								
	実行計画名										

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業
事業期間	2005 (H17) 年度	年度	～		年度まで
根拠法令等	決裁				
関係補助金名称			サンセット	～	
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	障害児、医療的ケアを必要とする児童			
	サブターゲット				
	ターゲットが抱える課題	平成27年度の事業開始当初は、個に応じた支援を受ける機会が十分ではなかった。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	支援教育の充実が図られ、個々の状況に応じた支援を受けることができる状態。				
事業概要	・通常の学級に在籍する発達障害等の児童・生徒への支援に関し、学校に専門家を派遣し指導・助言する。 ・職員が、学校園、保育所(園)、幼稚園、医療機関等を巡回し、就学相談を実施する。 ・枚方市立小中学校の支援教育推進の中心となる支援教育コーディネーターの活動時間を支援するために、非常勤講師を加配する。 ・肢体不自由児介助員を配置し、小中学校の肢体不自由学級に在籍する児童・生徒の生活、訓練、学習等の介助を行う。 ・学校看護師を配置し、医療的ケアを必要とする児童及び生徒の枚方市立学校園における日常生活を支援する。 ・肢体不自由児童・生徒に対し理学療法士による専門的な機能回復訓練を実施する。併せて支援学級担任に対して日常訓練の指導・助言を行う。 ・支援学級入級児童生徒に対する備品購入及び新設支援学級の設備整備を行う。				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)				
		支援教育の充実が図られ、個々の状況に応じた支援を受けることができる。				専門家の派遣により、対象の児童・生徒に対し、適切な指導・助言を行うことができる。				通常の学級に在籍する発達障害等の児童・生徒への支援のため、学校に専門家を派遣する。				
指標設定	指標説明	支援が必要と認められた児童・生徒に対する支援教育に係る満足度 【算出式: 支援をしている児童・生徒数/支援を必要とする児童・生徒数×100】				専門家による指導・助言回数				小中学校への専門家派遣校数				
		単位	%											単位
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	
		目標 (見込み)	100	100	100	100	20	20	20	20	4	4	4	4
		実績	100	100	100	100	20	20	20	20	4	4	4	4
達成度		100%				100%				100%				

		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)				
ロジックモデル②		支援教育の充実が図られ、個々の状況に応じた支援を受けることができる。				各学校園等の巡回により、障害児、及び医療的ケアを必要とする児童が相談できる機会が増える。				職員が、就学支援のため、学校園、保育所(園)、幼稚園、医療機関等を巡回。				
指標設定②	指標説明	支援が必要と認められた児童・生徒に対する支援教育に係る満足度 【算出式: 支援をしている児童・生徒数/支援を必要とする児童・生徒数×100】				就学相談者数				就学相談の訪問園等の数				
		単位		%										単位
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	
		目標 (見込み)	100	100	100	100	360	360	360	360	77	77	77	77
		実績	100	100	100	100	336	314	310	332	80	82	79	81
達成度	100%				92%				105%					
ロジックモデル③		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)				
		支援教育の充実が図られ、個々の状況に応じた支援を受けることができる。				非常勤講師加配により、支援教育コーディネーターの活動時間が増加し、支援教育が推進される。				枚方市立小中学校の支援教育推進の中心となる支援教育コーディネーターの活動時間を支援するために、非常勤講師を加配する。				
指標設定③	指標説明	支援が必要と認められた児童・生徒に対する支援教育に係る満足度 【算出式: 支援をしている児童・生徒数/支援を必要とする児童・生徒数×100】				支援教育コーディネーター1週あたりの活動時間数				支援教育コーディネーター配置校数				
		単位		%										単位
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	
		目標 (見込み)	100	100	100	100	10	10	10	10	64	64	63	63
		実績	100	100	100	100	10	10	10	10	64	64	64	64
達成度	100%				100%				102%					
ロジックモデル④		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)				
		支援教育の充実が図られ、個々の状況に応じた支援を受けることができる。				肢体不自由児介助員の配置により、生活、訓練、学習等の介助を行う。				小中学校の肢体不自由学級に在籍する児童・生徒のため、肢体不自由児介助員を配置。				
指標設定④	指標説明	支援が必要と認められた児童・生徒に対する支援教育に係る満足度 【算出式: 支援をしている児童・生徒数/支援を必要とする児童・生徒数×100】				肢体不自由児介助を必要とする児童生徒数				肢体不自由児介助員配置人数				
		単位		%										単位
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	
		目標 (見込み)	100	100	100	100	22	22	22	22	22	22	22	22
		実績	100	100	100	100	19	30	26	24	19	27	23	27
達成度	100%				109%				123%					

		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
ロジックモデル⑤		支援教育の充実が図られ、個々の状況に応じた支援を受けることができる。				学校看護師を配置することにより、対象幼児・児童及び生徒の枚方市立学校園における日常生活を支援する。				医療的ケアを必要とする幼児・児童及び生徒のため、学校看護師を配置。			
指標設定⑤	指標説明	支援が必要と認められた児童・生徒に対する支援教育に係る満足度 【算出式: 支援をしている児童・生徒数/支援を必要とする児童・生徒数×100】				学校看護師を必要とする児童生徒数				学校看護師の配置人数			
		単位 %				単位 人				単位 人			
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)	100	100	100	100	16	16	16	16	26	26	26	26
	実績	100	100	100	100	18	19	16	15	30	40	42	32
達成度		100%				94%				123%			
ロジックモデル⑥		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
		支援教育の充実が図られ、個々の状況に応じた支援を受けることができる。				理学療法士の配置により、肢体不自由児童・生徒に対し、専門的な機能回復訓練を実施する。				肢体不自由児童・生徒のため、理学療法士を配置。			
指標設定⑥	指標説明	支援が必要と認められた児童・生徒に対する支援教育に係る満足度 【算出式: 支援をしている児童・生徒数/支援を必要とする児童・生徒数×100】				機能回復訓練の回数(小学校 54回。中学校22回)				理学療法士の訓練を希望する児童生徒数			
		単位 %				単位 回				単位 人			
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)	100	100	100	100	76	76	76	76	52	52	52	52
	実績	100	100	100	100	81	89	73	88	65	62	55	47
達成度		100%				116%				90%			

3. 人員体制 (人)

	R5実績
正職員	3.82
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	55.12
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	10.00

4. 決算額

		R3決算額	R4決算額	R5決算額	(参考) R5予算額	(参考) 予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	27,312	29,686	30,159		
	会計年度任用職員	159,201	151,307	208,917		
	特別職非常勤	10	0	0		
	附属機関委員	0	0	665		
	人件費計	186,523	180,993	239,741		
歳入	物件費計	17,101	8,094	12,924	26,888	48.1%
	歳出計	203,624	189,087	252,665		
	国庫支出金	11,643	0	10,748	21,569	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
	府支出金	2,393	730	880	1,044	※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
	受益者負担(使用料、手数料)	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
歳入	その他	0	0	0	0	
	歳入計(物件費に充当される特定財源)	14,036	730	11,628	22,613	
	一般財源(物件費に充当されるもの)	3,065	7,364	1,296	4,275	

5. 総括的分析

総括的分析	支援学級は年々増加しており、令和5年度は小学校289学級(前年度比 8増)、中学校は95教室(前年度比 2減)であった。支援を必要とする児童・生徒すべてに個々の状況に応じた対応ができた。
-------	---

6. 今後の方向性

区分	拡充
今後の取り組み方針	国・府の通知により、適切な学びの場の見直しを進めるとともに、通級指導教室を含めた支援教育全体の質的向上を図っていく。今後も、障害のある児童・生徒の個々の状況に応じた学びの場の確保や社会的障壁を取り除くための合理的配慮を行い、教育の環境を整えていく。

事務事業実績測定調書

R5調書番号 451

事務事業名称	通学困難児童・生徒通学等タクシー支援事業											
測定年度	2023(R5)年度			部	学校教育部			課	支援教育課			
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5		
総合計画体系	基本目標		3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち									
	施策目標		16.子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち									
	実行計画名											

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業
事業期間	1974(S49)年度	年度	～		年度まで
根拠法令等	決裁				
関係補助金名称			サンセット		～
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	肢体不自由児や病気によって通学困難な児童・生徒			
	サブターゲット	肢体不自由児や病気によって通学困難な児童・生徒の保護者			
	ターゲットが抱える課題	徒歩による通学が困難で、学校を欠席することが多い。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	通学タクシーを利用することにより、出席日数が増加したり、学校行事に参加したりする機会が増加した状態。				
事業概要	・枚方市立小中学校に在籍する肢体不自由児や腎炎・ネフローゼ児等通学が困難な児童・生徒のタクシー利用による通学費用に対して、支援金の交付を行う。 ・枚方市内に在住する支援学校等に在籍する通学が困難な児童・生徒のタクシー利用による通学費用に対して、支援金の交付を行う。				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
		通学タクシーを利用することにより、出席日数が増加したり、学校行事に参加したりする機会が増加したりする。				通学タクシー支援により、対象児童が通学できる機会を増やす。				枚方市立小中学校に在籍する肢体不自由児や腎炎・ネフローゼ児等を対象とした、通学タクシーに係る支援を実施。			
指標設定	指標説明	タクシーチケットを使用した日の出席日数				通学タクシーチケット利用枚数				通学タクシー利用申請者数			
				単位	日			単位	枚			単位	人
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	実績	1,455	1,198	1,198	1,198	240	2,000	2,000	2,000	40	40	40	40
達成度		76%				64%				70%			

3. 人員体制 (人)

	R5実績
正職員	0.24
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

		(千円)				
		R3決算額	R4決算額	R5決算額	(参考)R5予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	2,829	2,812	1,895		
	会計年度任用職員	0	0	0		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	2,829	2,812	1,895		
歳入	物件費計	1,144	1,328	1,697	2,000	84.9%
	歳出計	3,973	4,140	3,592		
	国庫支出金	0	0	0	0	
歳入	府支出金	0	675	847	1,000	
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	歳入計（物件費に充当される特定財源）	0	675	847	1,000	
一般財源（物件費に充当されるもの）		1,144	653	850	1,000	

5. 総括的分析

総括的分析	本事業においては、毎日利用や学校行事及び雨天時等の必要時利用の2種類の形態があり、毎日利用の児童生徒が少なかった。特に医療的ケア児は緊急時の対応が予期されるため、保護者が直接送迎するつもりで非常時に向けて申請していたり、放課後デイサービスの拡充により下校時は本事業を利用しなかったり、リハビリテーションの一環として徒歩での登校を織り交ぜたりなどの理由から、執行額が想定を下回っている。
-------	---

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	次年度の新就学児童の状況や、入退院を繰り返す児童生徒の状況の把握に務め、次年度の利用のニーズを丁寧に見立てていく

事務事業実績測定調書

R5調書番号 456

事務事業名称	小中学校安全対策事業												
測定年度	2023(R5)年度			部	学校教育部			課	支援教育課				
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5			
総合計画体系	基本目標		3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち										
	施策目標		16.子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち										
	実行計画名												

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業
事業期間	R3年度(2021年度)		年度	～	年度まで
根拠法令等	決裁				
関係補助金名称			サンセット	～	
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	小中学生			
	サブターゲット	小中学校に勤務する教職員			
	ターゲットが抱える課題	命を守る知識を身に付けることが必要			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	小中学校において、危機事象が起きた場合に適切に対応できる力を身に付ける。				
事業概要	(1) 小中学校において、危機管理マニュアルを見直し、実践的な避難訓練を実施する。 (2) 小中学校において、一般的な安全指導のほか、交通安全教室等を実施する。 (3) 小学校において、胸骨圧迫とAEDの取り扱いに特化した救命講習を実施する。 (4) 小学校において、防災キャンプを実施する。 (5) 小中学校において、メール配信システムを活用し、不審者情報や暴風警報等発表時の具体的な対応を関係機関、保護者に提供する。				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)					
		命を守る安全意識が向上する。				安全指導及び交通安全教室の実施により、児童生徒が安全意識について考えるきっかけになる。				小中学校において、一般の安全指導のほか、交通安全教室等を実施					
指標設定	指標説明		児童、生徒の事故等遭遇件数				安全教室を実施した回数				交通安全教室、自転車安全教室を実施した学校数。				
	単位		件		単位		回		単位		校				
	指標種類		減少することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				
	指標数値	目標 (見込み)		R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
		実績		0	0	0	0	109	109	107	107	64	64	63	63
達成度		50%				100%				100%					

ロジックモデル②		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
		命を守る安全意識が向上する。				救命講習を実施することによって、 知識を身に付ける。				小学校において、胸骨圧迫とAEDの 取り扱いに特化した救命講習 を実施する。			
指標設定 ②	指標説明	児童、生徒の事故等遭遇件数				救命講習を実施した回数				救命講習を実施した校数			
		単位		件		単位		回		単位		校	
	指標種類	減少することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)	0	0	0	0	45	45	44	44	45	45	44	44
	実績	3	5	8	4	0	42	44	44	0	42	44	44
達成度		50%				100%				100%			

3. 人員体制 (人)

	R5実績
正職員	1.16
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

		(千円)				
		R3決算額	R4決算額	R5決算額	(参考)R5予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	9,821	9,765	9,158		
	会計年度任用職員	0	0	0		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	9,821	9,765	9,158		
歳入	物件費計	3,061	2,691	5,153	5,292	97.4%
	歳出計	12,882	12,456	14,311		
	国庫支出金	0	0	0	0	
歳入	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	566	120	24	20	
	歳入計（物件費に充当される特定財源）	566	120	24	20	
一般財源（物件費に充当されるもの）		2,495	2,571	5,129	5,272	

5. 総括的分析

総括的分析	枚方市立小中学校において、子どもたちに対して安全指導及び交通安全指導等を適切に実施することで、命を守る知識、危機事象に対する対応策を身につけることができた。
-------	--

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	今後も各校での取り組みを確実に進めていく。

事務事業実績測定調書

R5調書番号 963

事務事業名称	支援教育課運営事務									
測定年度	2023(R5)年度			部	学校教育部			課	支援教育課	
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5
総合計画体系	基本目標		9.施策体系外							
	施策目標		99.施策体系外							
	実行計画名									

1. 事務事業の概要

種類	内部管理	特性	庶務的事務	区分	庶務的内部管理事務
事業期間			年度	～	年度まで
根拠法令等	決裁等				
関係補助金名称			サンセット		～
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	支援教育課職員			
	サブターゲット				
	ターゲットが抱える課題	課の運営を円滑に図る必要がある。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 （課題が解決した状態）	課の運営が円滑に行われている。				
事業概要	課の運営業務				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
指標設定	指標説明												
	指標種類												
	指標数値	目標 (見込み)											
		実績											
	達成度												

3. 人員体制 (人)

	R5実績
正職員	0.38
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	1.42
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

		(千円)				
		R3決算額	R4決算額	R5決算額	(参考)R5予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	1,571	781	3,000		
	会計年度任用職員	568	0	3,873		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	2,139	781	6,873		
	物件費計	272	157	17,525	19,233	91.1%
歳出計		2,411	938	24,398		
歳入	国庫支出金	0	0	0	0	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。 ※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	歳入計（物件費に充当される特定財源）	0	0	0	0	
一般財源（物件費に充当されるもの）		272	157	17,525	19,233	

5. 総括的分析

総括的分析	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で予算化していた負担金(メチャハッピー祭参加費)については執行できなかったが、その他は適正に運用できた。
-------	---

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	今後も適正に予算執行をしていく。